

原 浩二

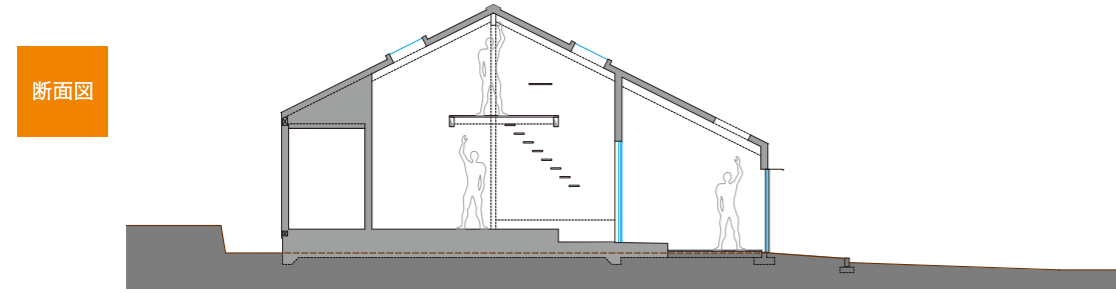
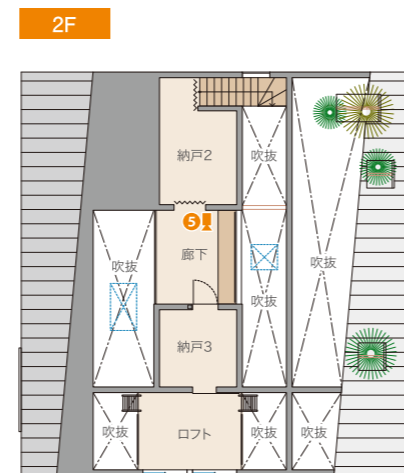
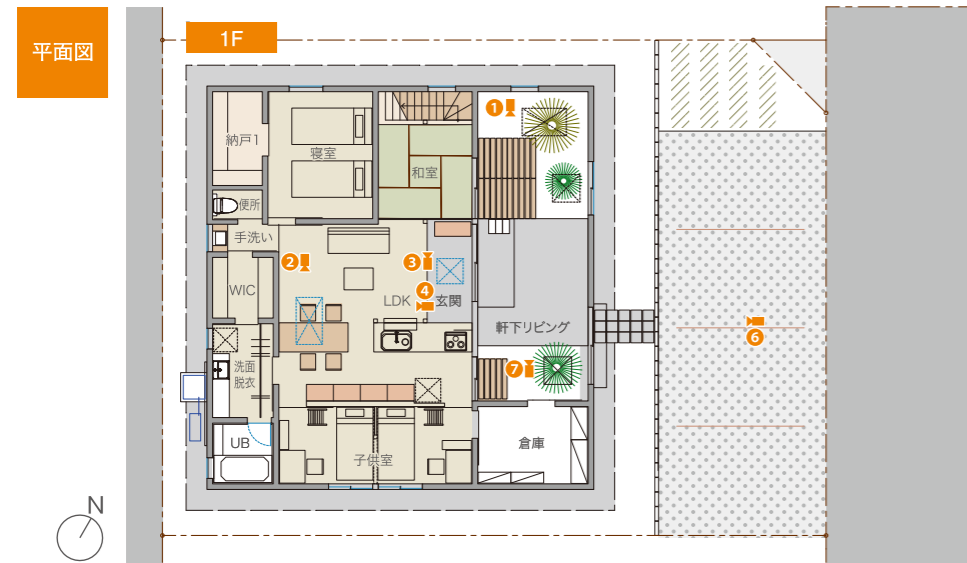
原浩二建築設計事務所

【作品名】お庭リビングの家

設計 原浩二建築設計事務所
 施工 株式会社 御船組
 竣工日 2020年3月28日

◎建物概要
 建設地 島根県出雲市 延床面積 139.48㎡
 敷地面積 245.79㎡ 構造・規模 木造2階建

◎設備面の特記
 厨房機器 IHクッキングヒーター
 給湯機器 エコキュート
 冷暖房機器 エアコン



設計コンセプト

ここ近年、山陰島根のそれなりに厳しい気候風土の中でどのような建築をついたら良いのかを漠然と考えています。そのひとつに外部空間のつくり方、屋根と建物の関係性があります。施主様から「中庭やデッキテラスがほしいな…」という要望が年々増えてきている気がしますが、そこには家族や友達との理想の週末や近隣のプライバシーの関係性などが見え隠れしています。それに対して考えるのは「無防備でオープンな外部空間は決して有効な使い勝手を産まないのではないか」ということです。夏場の厳しい日差し、その他の季節の雨の多さ。庭を屋根、壁あるいはサッシで囲い込んで内部化することでより使い勝手の良い気持ちのいい庭になるのではないかと。本来開放的であるはずの外部を内部化することで、むしろ生活との距離感が縮まってより外部的な生活が増えてくる

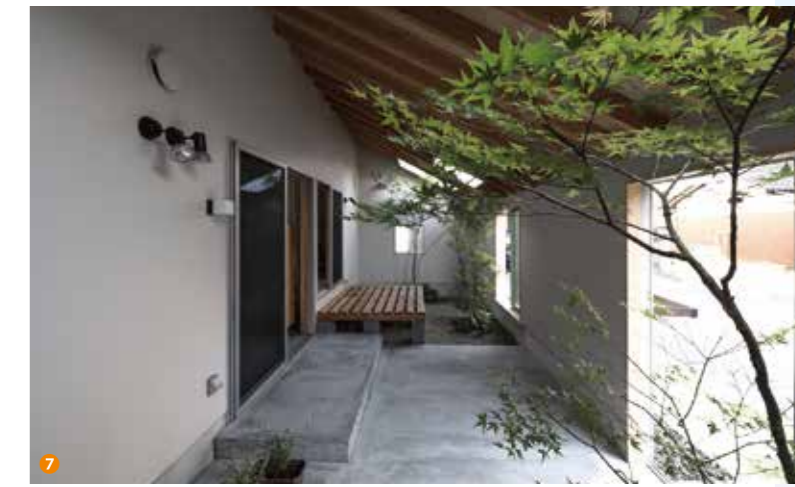
気がしています。もう一つは動線との関係です。多くの場合、玄関からLDK、その先に中庭やデッキテラスがありますが、それだと日々外に出ることがあるのだろうか？せいぜい洗濯物を干すくらいではないだろうか？と思えてきます。しかし中庭やデッキテラスを動線の中に組み込むことでもう少し生きた空間にすることができるのではないかと。具体的にはその空間を通して家への出入りをするだけでも日々の生活の一部になってくれるのではないかと考えています。他にもキッチンとの距離感や閉じ過ぎることでの近隣との関係性などその都度考えるべき事柄はありますが、この一年の世界の混乱の中、人々の営みの空間をいかに作るべきかを重ね合わせて考えるタイミングの住宅になりました。

審査委員講評

日本古来の民家を彷彿とさせる、実にシンプルな平面・断面計画の住宅です。「お庭リビング」の提案は、とても魅力的で新しい考え方です。屋根の下の半外部空間は、季節によって、天候によって、時間帯によって様々な利用が考えられ、使用頻度の高い素晴らしい場所となることでしょう。常に独自の設計手法を追求してこられた設計者の力量が垣間見えます。



①②③④庭を屋根、壁、サッシで囲んで内部化する事で、より使い勝手の良い、気持ちの良い庭になるのではないかと考えた。本来開放的であるはずの外部を内部化し、日々の生活との距離感が縮まり、より外部的な生活様式の幅を増やした。



⑤2階フリースペース+吹抜空間。階高は極力抑えて気積を最小限にするとともに、シーリングファンや天窓へのロールスクリーンによって熱負荷を軽減。
 ⑥周辺に対しクローズした設計としたが、二つの引違い窓の開閉によって近隣と一定の関係性を確保。
 ⑦引違い窓を開けると周辺との繋がりが生まれる。